

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果
- eポートフォリオの活用を通じて -
A Study On the Effects of Mutual Learning through Peer Response
by Using e-Portfolio

許 夏玲
東京学芸大学留学生センター

要旨

本研究では、eポートフォリオの活用を通じて、より自由な学習環境で日本語学習者の相互学習を促進し、物事を考える力と日本語の運用能力を高めることを目的としている。2013年度の秋学期及び2014年度の春学期において、中級（後半）の作文授業（2013秋）、中級（前半）の作文授業（2014春）及び上級（超級も含む）学習者のいる大学院授業（2013秋、2014春）で、eポートフォリオを用いて日本語の運用、相互評価、相互学習を中心に行い、授業後の受講生アンケートの回答結果をもとにeポートフォリオによる相互学習への効果を明らかにした。

キーワード：

日本語学習者、eポートフォリオ、相互学習、相互評価、意見交換

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果 - eポートフォリオの活用を通じて -

許 夏玲

東京学芸大学留学生センター

1. 実践の背景と目的

これまでの筆者の経験では、日本語授業または大学院の授業において、その都度受講生の授業への参加度にもよるが、全体的に言えば受講生の発言が少なく、発言者もほとんど特定の者に限られている。授業では、教授内容だけで時間が取られてしまうため、ゆっくりと互いの意見表明や討論のできる時間が足りず、受講生は独りよがりの学習になりやすい。教師主導型の授業では、学習者が与えられた指示の通りに動くことが多いため、学習者の自律学習のモチベーションを阻害してしまうことが考えられる。

学習者の自律学習を促進する工夫を試みた先行研究の中で、毛利・中井(2014)は、誤用の理由が書かれた教師作成の「気づきシート」に基づき、日本語初中級の学習者が作文の書き直し(清書)を行う過程で自らの誤りに気づき、言語の習得が促進され、また自律学習能力の促進効果が得られたと報告した。しかし、このような学習では教師と学習者の一対一のやり取りであるため、学習者自身の自律学習の促進は期待できるが、学習者同士の相互学習による自律学習とは違うと思われる。

そのほか、田中(2014)では中上級学習者を対象に、コンピューターを活用したピア・レスポンス(Computer Mediated Peer Response、以下CMPRとする)と対面によるピア・レスポンス(Face to Face Peer Response、以下FFPRとする)のそれぞれの作文指導への効果を検証し、CMPRは仲間の作文へのフィードバックに肯定的評価が見られるが、問題点の指摘が少ないと指摘した。CMPRと比べ、FFPRのほうが好まれる傾向があるという。しかし、上述のように、授業中のような対面式のディスカッション活動を用いても学習者の発言が少ない、また時間上の制限などの問題点が存在していると見られる。

以上のことを踏まえ、筆者は東京学芸大学で開発されたeポートフォリオ^{注1}の活用を通じて、より自由な学習環境で日本語学習者の相互学習を促進し、他者の学習物に対する評価や自己の学習物に対する反省などの物事を考える力と、授業中であまり発

^{注1} 東京学芸大学で開発されたeポートフォリオは、ウェブクラス(Webclass)というコンテンツに掲載されている。コンテンツ上の登録された科目(教師は担当科目、学生は履修科目)をクリックすると、該当科目のeポートフォリオのページが表示され、eポートフォリオでは担当教員と受講生の間で学習物の提出や閲覧ができ、情報を共有できる。

言しない学習者自身の意見や感想を日本語で表出できる、言い換えれば日本語の運用能力を高めることを目的として、2013年度の秋学期及び2014年度の春学期において、中級（後半）の作文授業（2013秋）、中級（前半）の作文授業（2014春）及び上級（超級も含む）学習者のいる大学院授業（2013秋、2014春）で、eポートフォリオを用いての日本語の運用、相互評価、相互学習を中心に行い、授業後の受講生アンケートの回答結果をもとにeポートフォリオによる相互学習への効果を明らかにした。

このように、学期を通じてeポートフォリオを活用した日本語科目は、筆者の勤めている留学生センターでは初めてである。

2. 実践の対象と方法

今回の実践対象は東京学芸大学に留学している中級（前半と後半）と上級（超級を含む）の外国人学習者とした。

時期と学習者のデータは次の通りである。

- (1) 科目名：日本語2作文（学部生向けの授業）
時期：2013年度秋学期
対象：学習者12名（国籍の内訳：中国2名、ベトナム2名、アメリカ1名、韓国1名、タイ2名、ドイツ1名、エストニア1名、ロシア2名）
- (2) 科目名：日本語研究特論（大学院授業）
時期：2013年度秋学期
対象：学習者6名（中国）
- (3) 科目名：日本語3作文（学部生向けの授業）
時期：2014年度春学期
対象：学習者4名（国籍の内訳：台湾1名、ドイツ3名）
- (4) 科目名：日本語研究特論（大学院授業）[日本人大学院生3名]
時期：2014年度春学期
対象：学習者5名（国籍の内訳：タイ2名、中国3名）

ポートフォリオとはドキュメントのフォルダーのことである。インターネットを通じてのポートフォリオの利用で何ができるかと言うと、随時ログインしてポートフォリオ上で保存された書類が閲覧できる、またコメントを書き込んだり、情報を共有して閲覧したりできるという利点を活かして、日本語の運用、相互評価、相互学習によって日本語学習のモチベーションを向上させることが期待できる。現在、eポートフォリオといった機能を持っている他のソフトウェアやコンテンツもあるが、大学で管

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果
- eポートフォリオの活用を通じて -

理されているコンテンツであれば、トラブルへの解決やプライバシーの保護といった点には安心できると思われる。E ポートフォリオの使用に関する学習者の感想を知るために授業後にアンケートを実施し、e ポートフォリオによる学習への効果を検証した。

3. 学習の流れ

まず、作文授業の両クラスの後半では、e ポートフォリオを用いて、学習者に個々の興味や関心のある場所や事柄を調べて、文章にまとめてもらうニュースレター（A4紙1枚程度）と、日本の社会文化などの事象をテーマとしてその研究成果をまとめてもらう研究レポート（A4紙5枚程度）〔2作文：3～4名のグループ作業、3作文：個人作業〕の2つの課題を分けて行った。e ポートフォリオへの提出物をもとに学習者間の相互評価を行った。一方、大学院授業の両クラスの後半では、e ポートフォリオを用いて、大学院生に談話分析をテーマとした研究レポートの内容（2013 秋）、修士論文の研究内容（2014 春）について、ディスカッションと相互評価を行ってもらった。ほとんどの授業時間では、教師がシラバスの教授内容を教えた。

学習者が各自またはグループで課題に取り組む前に、授業では教師による文章の書き方、課題の提示などの説明を事前に受けた。学習の流れは次のようになる。

表1 作文授業の学習の流れ

事前に課題の提示と説明（学習物の提出締切日の1～2週間前）
提出締切日まで：eポートフォリオへ学習物（計画案、初稿など）をアップロードする。
翌週の授業前日まで：グループメンバーで原稿を読み合い、評価コメントをする（教師も含む）。→振り返りシート ^{注2} に意見、コメントを書く。
翌週の授業前日まで：コメントをもとに修正し、eポートフォリオへ修正済みの原稿をアップロードする。
翌週の授業日：原稿内容をパワーポイント資料にまとめてプレゼンテーションを行う。

大学院の授業の後半では、2013 年度秋学期は研究レポート、2014 年度春学期は修士論文の研究内容に取り組む際に e ポートフォリオを用いた。学習の流れは次のようになる。

注2 振り返りシートに書き込まれた意見やコメントは、次の図3に示しているような相互評価の欄に表示される。

表 2 大学院授業の学習の流れ

事前に課題の提示と説明（学期始めに授業予定表を渡してある）
提出締切日まで：eポートフォリオへ学習物（研究テーマや構想）をアップロードする。
提出締切日まで：eポートフォリオへ学習物（初稿：A4紙3～4枚程度）をアップロードする。
翌週の授業前日まで：受講者間で原稿を読み、評価コメントをする（教師も含む）。 →振り返りシートに意見、コメントを書く。
2週間後：コメントをもとに修正した原稿をeポートフォリオへアップロードする。
翌週の授業日：原稿内容をパワーポイント資料にまとめてプレゼンテーションを行う。
2週間後：最終原稿を提出する。

上記の学習物の提出の作業は、学習者が各自課外で行ったものである。教師には、課外で提出期限までに学習物の提出やコメントの漏れを確認し、コメントをすることが求められる。授業では、当初設定されたシラバスの内容通りに教えられるため、授業時間は確保できる。一方、田中（2014）で指摘されたように、学習者にとって即刻の反応や交流が得られやすい対面式のピア・レスポンス（FFPR）のほうが好まれる傾向があるという点に関しては、取り組みの課題が終わった時点で、学習者の学習成果を口頭で発表できるようにプレゼンテーションを行い、対面式のディスカッションの時間を設けた。その際、教師がパワーポイント資料の作成や書き方などの注意点に関しても指導を行った。

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果
- eポートフォリオの活用を通じて -

図1 eポートフォリオでの学習物（日本語3作文）の提出状況


2014年5月16日 ニュースレターの主題と構想を提出する
2014年5月23～27日 相互評価（意見、コメント）
2014年5月28日 完成原稿を提出する

説明

自分の身近（みぢか）のところやことについて紹介します。

 ニュースレター：構想（こうそう）

学習成果物

 カラオケバンパンの紹介	2014-05-28 20:03:37
 ニュースレター、 カラオケ店を紹介したい	2014-05-16 19:14:59

相互評価

計 3 件

14-05-27 21:45 私もいきたい～！	
14-05-23 13:47 すごく安い	
14-05-23 13:20 コメント	

表示

教師評価

計 2 件

14-05-29 17:24 コメント2（許夏玲）	
14-05-23 14:43 コメント（許夏玲）	

追加 表示 削除

図2 eポートフォリオでの学習物（大学院授業）の提出状況

- 2013年12月29日 研究レポートの題目と構想を提出する
- 2013年1月7日 相互評価（意見、コメント）
- 2013年1月21日 レポートの初稿を提出する
- 2013年1月21日 相互評価（意見、コメント）
- 2014年2月4日 レポートの完成原稿を提出する

説明

研究テーマについて、先行研究を踏まえ、授業見学の観察ノートおよび会話データをもとに分析を行う。また、授業見学を通じて得られたことについても述べる。



研究レポート用紙

学習成果物

	[Redacted]	2013-12-29 23:54:04
	研究レポート2	2014-01-21 08:53:18
	最終レポート	2014-02-04 10:47:05

相互評価

計 6 件

- 14-01-07 12:04 [Redacted]
- 14-01-07 11:57 [Redacted]
- 14-01-07 11:31 [Redacted]
- 14-01-07 11:15 [Redacted]
- 14-01-21 11:49 [Redacted]

表示

教師評価

計 3 件

- 14-01-05 19:13 コメント（許夏玲）
- 14-01-21 14:56 コメント2（許夏玲）
- 14-02-19 13:02 最終レポート（許夏玲）

追加

表示

削除

4. 振り返りによる評価

対面式のピア・レスポンス（FFPR）は授業中に他の学習者との間で即刻の反応や交流が得られやすいため、好まれる傾向があると言われているが、前述のように、筆者の経験では授業中、「全体的に言えば受講生の発言が少なく、また発言者がほとんど特定している者が多い」、「ゆっくりと互いの意見表明や討論のできる時間が足りない」という点を補うためにeポートフォリオを用いてディスカッションや意見表明の場を学習者に提供するという手段が良いと思われる。振り返りでの学習者の意見やコメントに関しては、日本語指導が目的ではないため、間違いがあっても教師は特にコメントをしない。

下記の通り、学習者のグループメンバーの学習物への意見やコメントを提示する。

日本語2 作文（2013年度秋学期）

コメントや評価が遅くなってしまって、申し訳ありません。m(_ _)m 実は、日本人の若者と同じように、私も相撲にあまり興味がないです・・・といっても、相撲は日本文化の一部ですから、研究する価値があると思います。研究動機ははっきり述べていますが、目的ももっと明確にかいてあったらよかったですと思います。参考文献はまだないので、最後の項目はDになって、すみません。（実は、私のグループもまだ資料を探していません。これからもっと頑張らしましょうね！）では、頑張ってください。研究の結果を楽しみにしています。（本文のまま）

日本語3 作文（2014年度春学期）

文章の初めに、内容の概説したから、読者は早く外観をもらいます。とてもよくできたと思います！短いから、ちょっと変ですね。だから、章2と章3を併せてはどうですか。

簡単な文と絵を使ったから、本当に分かりやすいですね。

「このレポート」の表現の使い方は間違いではないですが、「本レポート」か「本稿」を使ったほうが良いと思います。レポートで使われる言葉だからだと思います。（本文のまま）

日本語研究特論（2013年度秋学期）

考察はまだ行っていませんね。会話授業の流れと学習者の会話能力の上達との関係も考慮内に入れたほうが良いと思います。また、中国の会話授業への提案も考えましょう。この部分は私のテーマと関連しています。（本文のまま）

日本語研究特論（2014年度春学期）

研究課題が細かく絞っているのがとても印象的でした。専門用語も多く出ているし、研究に必要な予備知識がたくさん必要であると実感しました。相互作用が自律性への影響を研究するテーマもいいと思います。ただし、最後のスライドに書いたように、先行研究の関係、先行研究と自分の研究との関係をより明確にする必要があると思う。また、データのどの部分から影響とそのプロセスを見いだすのも難しいところだと思います。（本文のまま）

学習者のグループメンバーへの意見やコメントを全体的に概観すると、学習者の個性にもよるが、遠慮しがちに意見を述べる人もいたし、率直に意見を述べる人もいた。1クラスの受講者がおおぜいいるわけではないし、互いに知っている若者同士での話ということで、率直に意見やコメントを述べる人のほうが多かった。学習者と比べて、むしろ教師のほうが学習者のことを配慮しつつ控えめにコメントをするところもあったと反省している。文章の中の間違いが多かった場合は、eポートフォリオでの振り返りでは肝心のポイントのみを書き、後日教師の訂正を入れた文章をプリントアウトして直接学習者に渡すことにした。

5. アンケートの回答結果

授業後に学習者のeポートフォリオの使用に関する感想や意見を聞くため、アンケートを実施した。アンケート（10問：選択肢6，記述式4）の回答結果は次のようにまとめられる。21名（2013年度秋学期：14名，2014年度春学期：7名）のうち、15名の学習者がeポートフォリオを使用したことがないことがわかった。また、18名が、eポートフォリオが使いやすくわかりやすいと答えた。多くの学習者がeポートフォリオの良い点を使用時間や場所の制限なし（7名）、また相互評価、相互学習（13名）と認めた。その他、20名の学習者の回答では、授業時より自分の意見や感想をよく述べられたということがわかった。

今回のeポートフォリオを活用した実践では、相互評価という点で学習者同士や教師からのコメントや意見をグループメンバー内で共有するため、自分の学習物やコメントが他者に見られることを嫌がるのではないかと予想していたが、意外に17名の学習者から相互評価を見られてもよいという回答を得た。

Eポートフォリオの授業への活用が認められているとはいうものの、毎回の課題や宿題に用いるのは学習者にも教師にも負担がかかると思われる。そこで、授業を補う

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果
- eポートフォリオの活用を通じて -

ためにどのようなところで活用できるかをアンケートで聞いた結果、ゼミや研究レポート（修士論文も含む）にも活用してほしい（11名）、ゼミのみでよい（6名）という要望があった。

そのほか、学習者のeポートフォリオの使用に関する感想や意見を次にまとめる。

日本語研究特論（2014年度春学期）

- ・ 課題の提出や利用時間がより自由で、課題をアップロードすることによって、授業中の発表で見過ごしたのももう一回見られるし、意見交換もより自由だし、いいと思います。（本文のまま）
- ・ レポートの提出に良いと思います。メールで送ったが先生に届けたかどうか分からなく、心配します。これはアップロードの状況が見られるため、安心できると思います。（本文のまま）

日本語3作文（2014年度春学期）

- ・ eポートフォリオを使うなら、先生は早くて、簡単にレポートを読めるので、速く直せます。今学期の授業では、4人だけ参加したので、ディスカッションはちょっと難しかったです。（本文のまま）
- ・ 相互の研究とレポートについてコメントを書いて、いい課題だったと思います。他の学生のレポートからいろいろなことが勉強できた。自分のレポートを書いた時に例えば組織の形のアイディアがない場合に他のレポートを見たら、自分のレポートに対して発案をもらえます。（本文のまま）

日本語研究特論（2013年度秋学期）

- ・ すごく便利で、使いやすいと思います。なぜかというと、レポートを完成するまでに、何回も修正しなければならないが、毎回プリントをすることは、紙を浪費だと思います。（本文のまま）
- ・ 相互評価と自分の感想など自由に述べられる。クラスメートと先生からのコメントと意見ももらえるから、とても使いやすいと思う。もしできれば、修論の時、相互評価など行えば役に立つと思う。（本文のまま）

日本語2作文（2013年度秋学期）

- ・ ディスカッションはとても便利とおもいます。自分の意見や間違い所は全部みんなに見られます。互いに評価と討論ができます。レポートの提出もすごく便利だと思います。（本文のまま）

- ・ レポートの提出はとても便利で、使いやすい。先生に直接ニア渡すとか、メールで送るより、特別な e クラスでいつでも提出できるのはとても便利です。ディスカッションにはあまり意味ないと思います。授業の時の直接的なディスカッションはあまり進まなくて、皆は何を書けばいいか困ってて、無理してコメントを書きます。(本文のまま)

学習者の回答を全体的に見ると、e ポートフォリオの使用に対し、レポートの提出の便利さ、相互評価による自律学習、意見表明など、おおむね良い評価が得られた。受講者のうち、1 名の学習者が日本語のクラスにやや遅れ気味で、また日本語でレポートを書いたことがなく、レポートの課題を与えたとき、自信がなくパニック状態に陥いた。結果的に、グループで仲間に助けをもらいながら良いレポートを完成させた。その学習者は日本語でしか表示されていない e ポートフォリオの使用がわかりにくいことに対して「このウェブサイトが大嫌いだ」というコメントをした。

田中 (2014) で述べられたように、対面式のような授業中のディスカッションが好まれる傾向があるというが、授業では学習者の一人一人の発言を導き出すのが難しいことも考えられるため、課外時間を活用し、e ポートフォリオによる学習者の自律学習や意見表明を促進することを試みた。しかし、学習にあたって、学習者の個性、ニーズやスタイルが様々であることから、アンケートによる学習者の回答を今後の授業のデザインの改善に活かしたい。

6. 教師の振り返りと今後の課題

今回の e ポートフォリオの実践では、学習者が全員真面目に提出期限までに学習物を e ポートフォリオへ送ったことから相互評価やコメントなどの書き込みがスムーズにでき、学習者による協力が大きいと実感した。しかし、インターネットの使用時間の制限なしという便利さで深夜になってようやくレポートを e ポートフォリオへ送った学習者もいた。教師が学習者の学習物の提出を確認するのに時間がかかったこともある。今後、提出日ならびに提出時間も決めておくことが肝心であろう。

学習者の振り返りでの評価では、主に学習物に対する意見や感想が書かれており、表現や文法に関する訂正がそれほど多くなかった。しかし、学習者の相互評価や調査アンケートの回答から見ると、本研究の目的としている他者の学習物に対する評価や自己の学習物に対する反省などの物事を考える力と、授業中であまり発言しない学習者自身の意見や感想を日本語で表出できる、言い換えれば日本語の運用能力を高める効果が得られたと考える。ほかの学習者にも参考となるように、表現や文法の訂正は

コンピューター型のピア・レスポンスに見られる相互学習の効果
- eポートフォリオの活用を通じて -

教師が行うが、期日までに教師が一足早くコメントをすると、学習者が書くのに遠慮してしまうと考え、教師のコメントは最後にすると決めておいた。文章の中の間違ひが多かった場合は、eポートフォリオでの振り返りでは肝心なポイントのみを書き、後日教師の訂正を入れた文章をプリントアウトして直接学習者に渡した。

確かにeポートフォリオを使用しない授業のほうが教師にとってより楽になるかもしれないが、eポートフォリオを通じての学習物の提出の便利さ、学習者同士の自律的な相互学習、また教師が学習者の個々の学習進度や意見、感想を理解することができるという様々な点においては、eポートフォリオの良さを認めざるを得ないのである。

今後、eポートフォリオを使用する学習の全体の流れや日程を見直し、余裕を持って学習予定を進めていきたい。また、ディスカッションやレポートだけでなく、ほかの用途を広げていきたいと思う。

付記 本稿は、2014年7月に行われたシドニー日本語教育国際大会にて発表された内容の一部を修正・追加したものである。

参考文献

- 田中信之 (2014) 「コンピューターを活用したピア・レスポンスの実践と評価-対面による活動との比較を通して-」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp. 152-157
- 毛利貴美・中井好男 (2014) 「eポートフォリオを利用した作文指導の実践-『気づきシート』の活用による自律学習能力の習得を目指して-」『2013年度第10回日本語教育学会研究集会(関西地区)予稿集』 pp. 70-73

添付資料 e ポートフォリオの使用に関する調査アンケート（日本語2作文）

1. 以前に授業で e ポートフォリオのような IT ソフトを使ったことがありますか。
a. あります b. ありません
2. e ポートフォリオは、使いやすくわかりやすいと思いますか。
a. すごくそう思う b. まあまあそう思う
c. あまり思わない d. 全然思わない
3. e ポートフォリオは、どの面においてあなたの学習に役に立ったと思いますか。（最も適切なものを選ぶ。）
a. 自分の意見表明 b. 相互評価
c. 相互学習 d. 使用時間や場所の制限なしの自由さ
4. e ポートフォリオでは、授業時より自分の意見、感想、コメントなどをよく述べられたと思いますか。
a. すごくそう思う b. まあまあそう思う
c. あまり思わない d. 全然思わない
5. e ポートフォリオで相互評価の結果を見られるのに対して、あなたはどのように思いますか。
a. 良いと思う b. 特にいやではない
c. どちらかと言えばちょっと抵抗感がある d. 良くないと思う
6. e ポートフォリオは、ゼミや研究レポートにも使いたいと思いますか。
a. ゼミや研究レポートにもぜひ使いたい b. ゼミのみで良い
c. 研究レポートのみで良い d. どちらかと言えば使わなくても良い
7. e ポートフォリオでの研究課題のディスカッションやレポートの提出について、どう思いますか。 （自由記述）
8. ニュースレターやレポートの活動を通して、どの面においてあなたの学習に役に立ったと思いますか。 （自由記述）
9. 今回の研究課題において、自分のグループの研究テーマの設定、グループ活動などについてどう思いますか。 （自由記述）
10. 今回の e ポートフォリオ、ニュースレター、レポートのグループ活動のほかに、今後作文の授業に取り入れてほしいもの、またはテーマがありますか。 （自由記述）